

# 長野県の地域包括ケア体制の 「見える化」について

# 地域包括ケア体制構築状況の「見える化」について(これまでの成果)

- 地域包括ケア体制構築状況の「見える化」について、これまでの成果・課題を踏まえ、見直しを行い、2025年、2040年を見据えて地域包括ケア体制の深化・確立を図る。

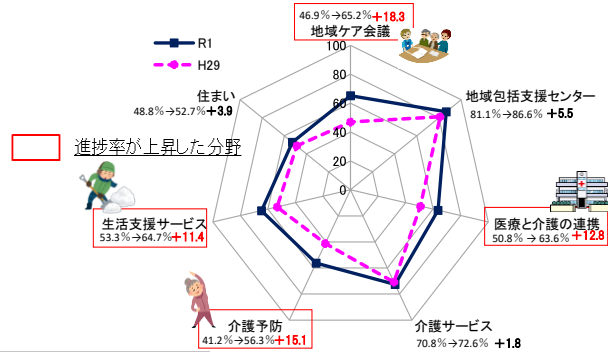
## 第6期・第7期計画期間における可視化調査の取組の成果

- 平成26年介護保険制度改正などにより、市町村に新たに求められた取組について、早期の着手を促し、進捗について把握するため、取組の有無や、整備状況を中心に指標を設定してきた

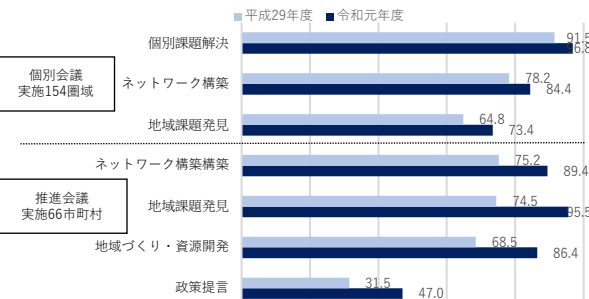
	【H26】	【H29】	【R1】
・地域ケア個別会議の開催状況	125圏域 (80.6%)	139圏域 (89.7%)	154圏域 (92.8%)
・医療と介護との協議の場の開催状況	66.9%	89.7%	95.8%
・生活支援コーディネーターの配置状況	0%	85.8%	97.0%

取組状況について着実な進捗を確認

### これまでの調査項目の例



### 地域ケア会議



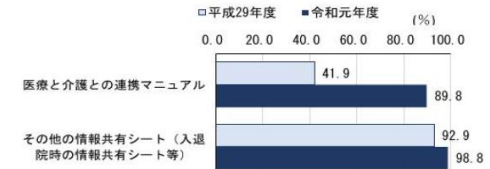
- 会議設置の有無、機能の有無は把握可能

### 医療と介護の連携

#### 【医療と介護の協議の場】



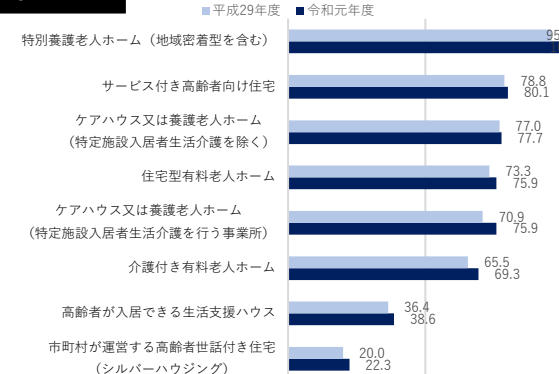
#### 【情報共有に向けた連携ツール】



- 場の有無、ツールの有無は把握可能
- 実際の在宅介護の進捗状況などは把握できない

### 住まい

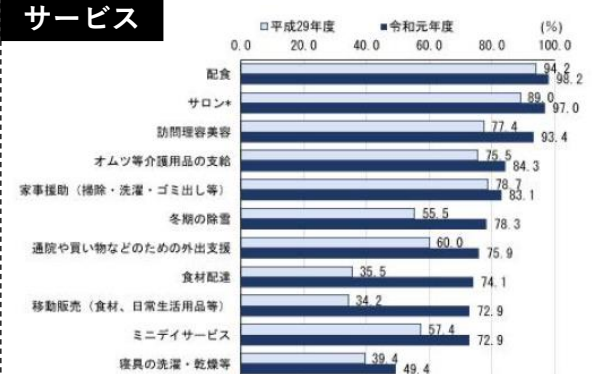
#### 【高齢者向け住まいの整備状況】



- 住まいの各種別の有無は把握可能
- 地域に必要なものの評価とはなっていない
- 所得状況等に応じた住まいの充足率は不明

### 生活支援サービス

#### 【生活支援サービスの実施状況】



- 生活支援サービスの有無は把握可能
- 地域における高齢者の生活ニーズを踏まえての充足率となっているか不明

# 地域包括ケア体制構築状況の「見える化」調査の改善について

## これまでの「可視化調査」と新たな「見える化調査」との違い

- 本県では、第6期高齢者プランから、市町村が地域包括ケア体制の早期構築に向けて、現状を把握し、目標を持って取り組めるよう、指標を用い、進捗状況を把握。
- 第7期、第8期では「整備」「取組進捗」「効果」3つの枠組みで指標（約390項目）を設定し、市町村アンケートの結果をもとに可視化を行った。
- これまでは地域包括ケア体制の早期構築を主目的にした調査であったが、2021年度から「成果」重視を目的とした見直し検討を実施。
- アンケート結果だけでなく客観的に「成果」を把握できるよう、市町村との意見交換を踏まえ見直しを行い、2021年度、2022年度と見える化調査を実施・改善を重ねた。

### 第7・8期プランにおける「可視化」調査

- 市町村アンケートにより取組や整備状況の有無は把握可能であったが、効果等は担当者主観による評価になりがち。  
→客観的な成果指標の設定が必要
- 多分野にわたる市町村アンケート結果のみの活用であり、実態調査結果など客観的なデータを取り入れ、最終成果に向けてどういう分野でどういう取組が必要か明確でなかった。  
→測定する対象の絞込  
→公開されているデータ等を最大限活用する

### 新たな「見える化調査」の考え方

- 市町村が、課題を把握し、より強化すべき取組を分かりやすく見える化するため、客観的な指標をもとに評価する設計とする。  
→最終アウトカム（KGI）及び、その達成に関連のある取組指標（KPI）、活動指標を分野ごとに設定
- 成果に向け必要な統計情報等を積極的に指標に取り入れる  
→統計及び高齢者実態調査など、様々な客観的なデータを活用し、抽出できない項目のみ市町村に照会  
(参考) これまでの調査：約390項目 → 見直し：約200項目

### これまでの可視化調査

効果：取組の効果を市町村が主観的に評価

活用：理解度や実施状況をチェックリスト的に把握

整備：事業・資源の有無、整備状況を把握

※市町村の回答項目は約390項目

【深化】  
より客観的な指標を体系的に整理し、市町村における課題や強化する取組の見える化を図る

### 新しい「見える化」調査

最終アウトカム（KGI）

中間アウトカム（KPI）

活動（アウトプット）指標

基盤整備（ストラクチャー）指標

ロジックモデル

※できる限り、統計等の客観データで測定  
※市町村の回答項目は約200項目

# 第9期の地域包括ケア体制構築状況の「見える化」について

## これまでの課題

- 取組や整備の状況については把握可能であるが、「成果」を見るのが困難

※ 適切なアウトカム指標を設定し、調査設計の見直しが必要

## 調査方法（項目）の見直し

- 市町村が、課題を把握し、より強化すべき取組を分かりやすく見える化するため、成果を中心に評価（配点）する調査設計に見直し
  - ※ 最終アウトカム（KGI）及び、その達成に関連のある取組指標（KPI）を分野ごとに設定  
（参考）これまでの調査：390項目 → 見直し：約150項目
- 既存の統計情報を指標に取り入れ、回答者の負担軽減を図る

## R3～4 調査実施

- 調査・分析を実施後、市町村と意見交換の上、今後、更なる精緻化も検討
- よりKGIと関連の強いKPIを把握し、重点的に加点
  - ※調査実施後に配点について検討

※ 調査実施にあたっては、市町村に説明会を開催のうえ意見照会し、必要な修正を行った

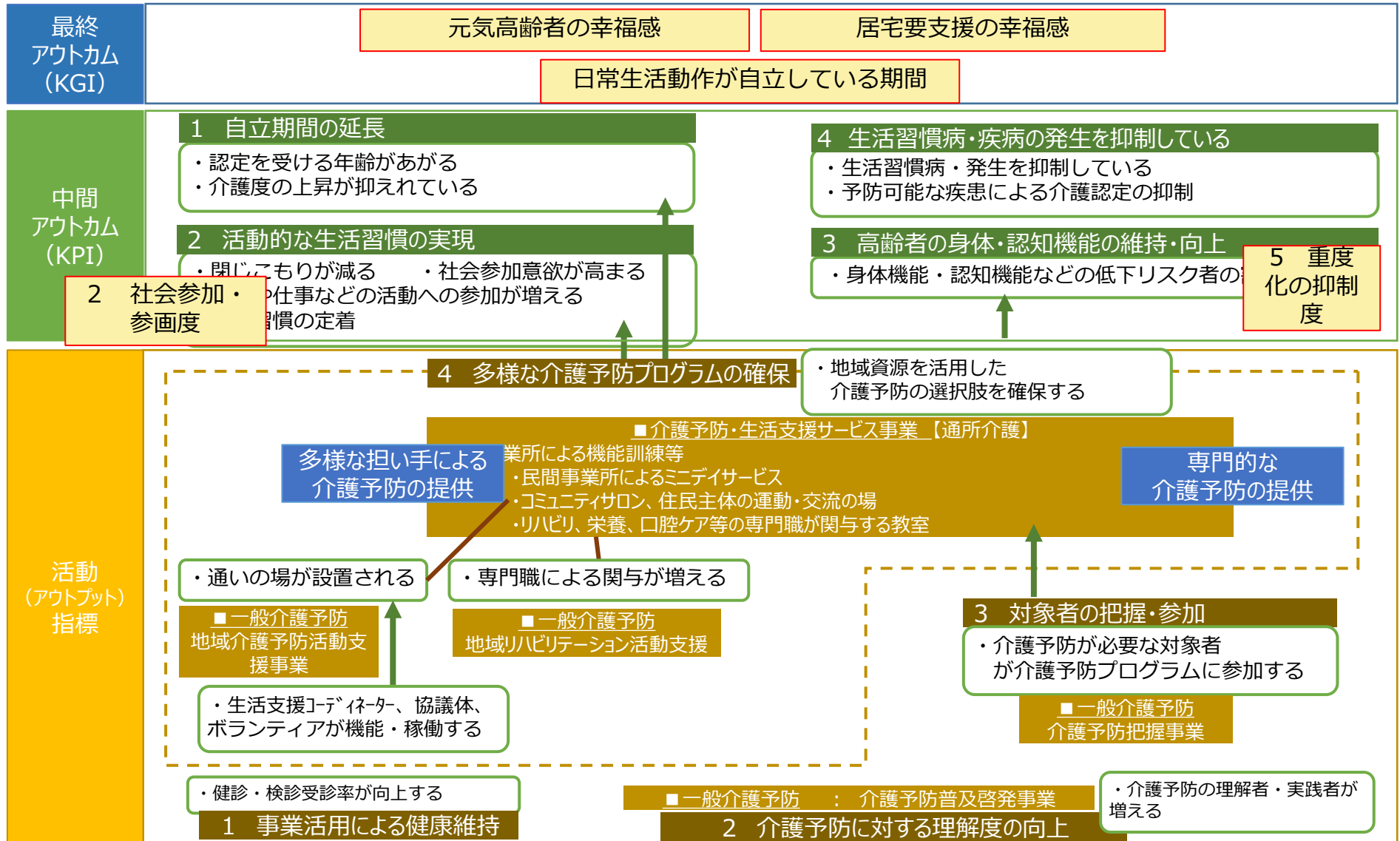
## 新しい県「見える化」の評価項目の例

分野	最終アウトカム（KGI）の例	中間アウトカム（KPI）の例
介護予防	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命（日常生活動作が自立している期間）</li> <li>・年齢等調整済み要介護認定率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会参加意欲</li> <li>・閉じこもりリスク高齢者の割合</li> <li>・要支援者のサービス利用1年後重症化率</li> </ul>
生活支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元気高齢者の幸福感</li> <li>・社会参加・参画度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養率</li> <li>・要介護3以上の者の在宅サービス利用率</li> <li>・生活支援サービスの充実を必要と感じている者の割合</li> </ul>
医療と介護の連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅死亡率</li> <li>・老人ホーム等死亡率</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ACPの実施割合</li> <li>・入退院時の情報提供率</li> <li>・退院調整の実施率</li> </ul>
住まい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・在宅療養者の満足度 （・施設入所者の幸福感・満足度）</li> </ul> <p>※現状、数値の取得は不可</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設入所を希望する理由が「住まいの構造」のみの割合</li> <li>・特養の入所待機期間</li> <li>・特養及び有料老人ホーム等利用者の所得段階割合</li> </ul>
介護保険の信頼性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康寿命（日常生活動作が自立している期間）</li> <li>・満足度（必要なサービスが過不足なく提供）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護給付の見込（推計）との乖離率</li> <li>・要介護認定率の見込との乖離率</li> <li>・要介護リスクの抑制</li> </ul>

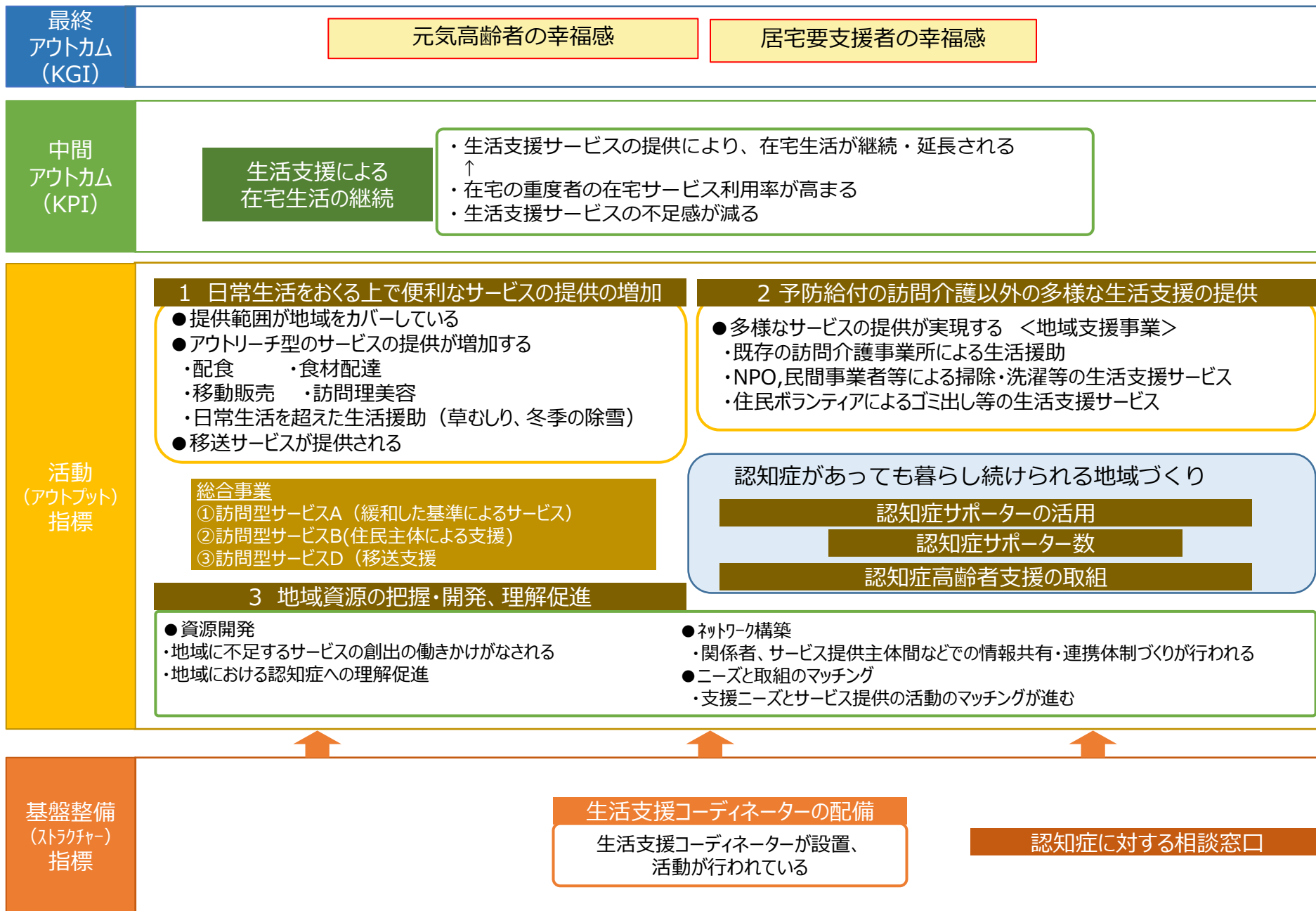
※ このほか、アウトプット指標、ストラクチャー指標など、参考指標も含めて必要な調査項目を設定

# 地域包括ケア体制の達成のための各分野の取組のロジックモデルの例

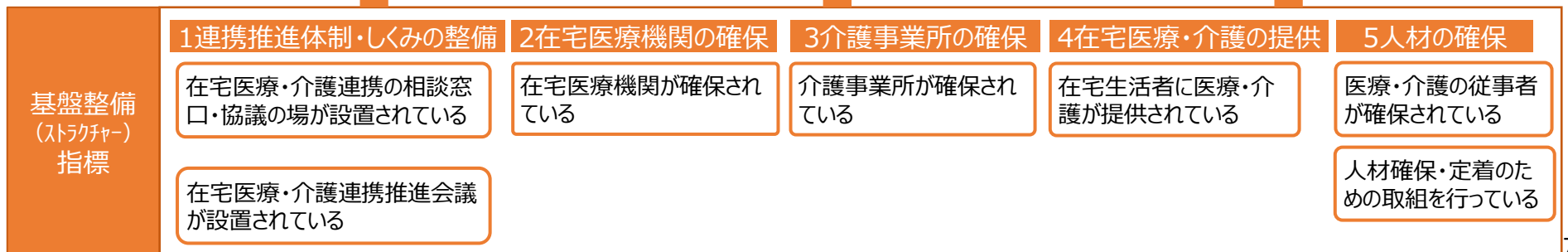
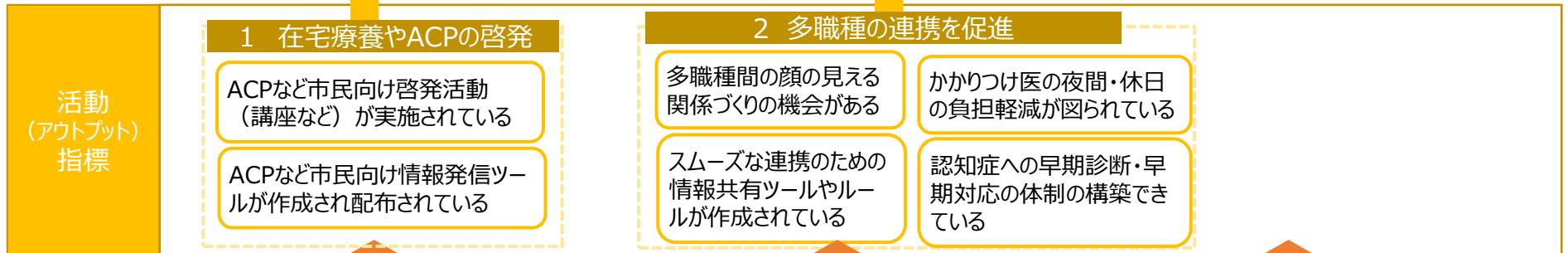
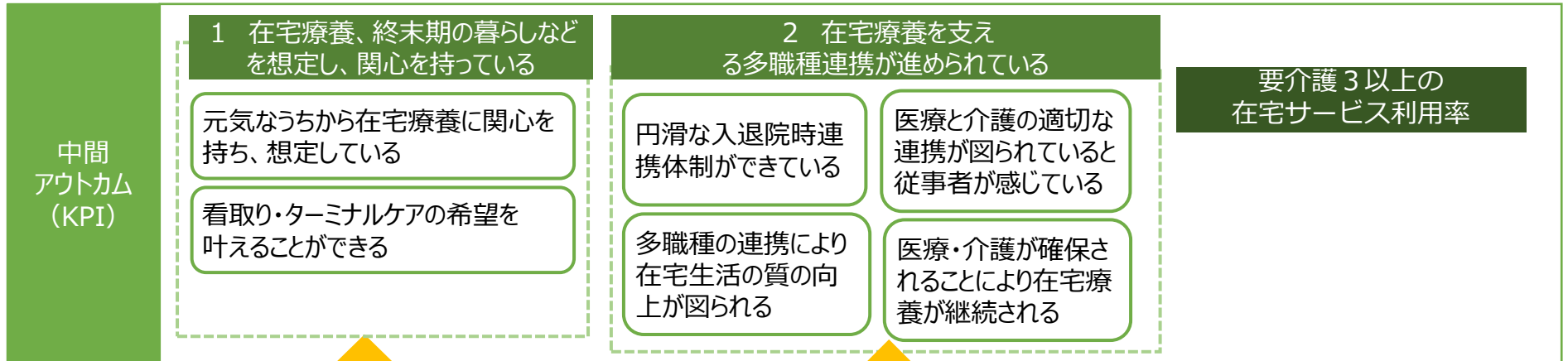
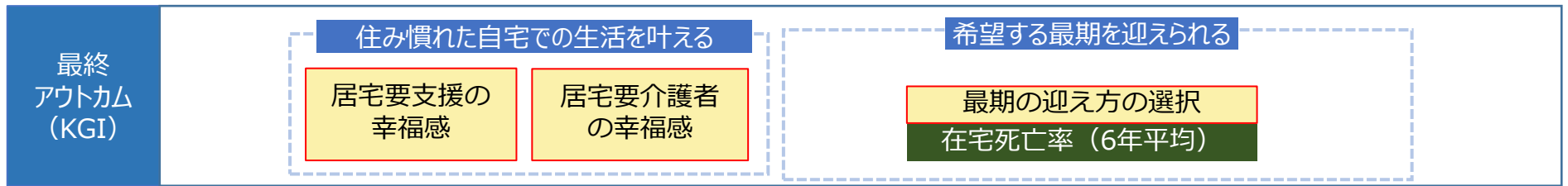
## I 介護予防



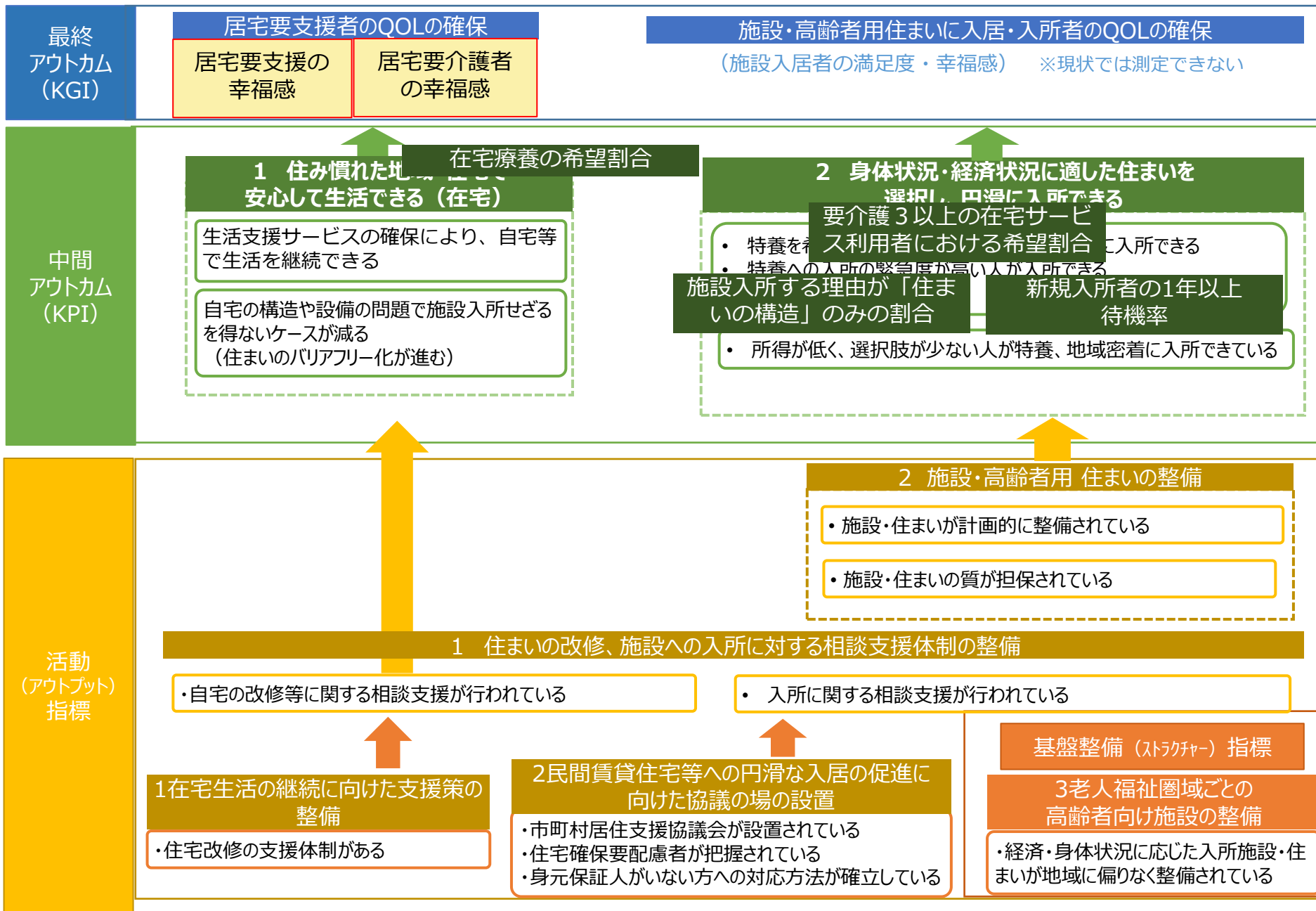
## Ⅱ 生活支援



# Ⅲ 在宅医療・介護連携

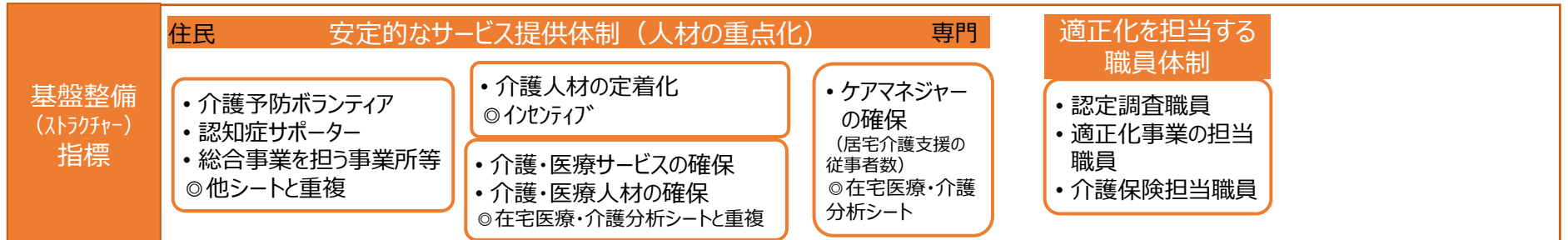
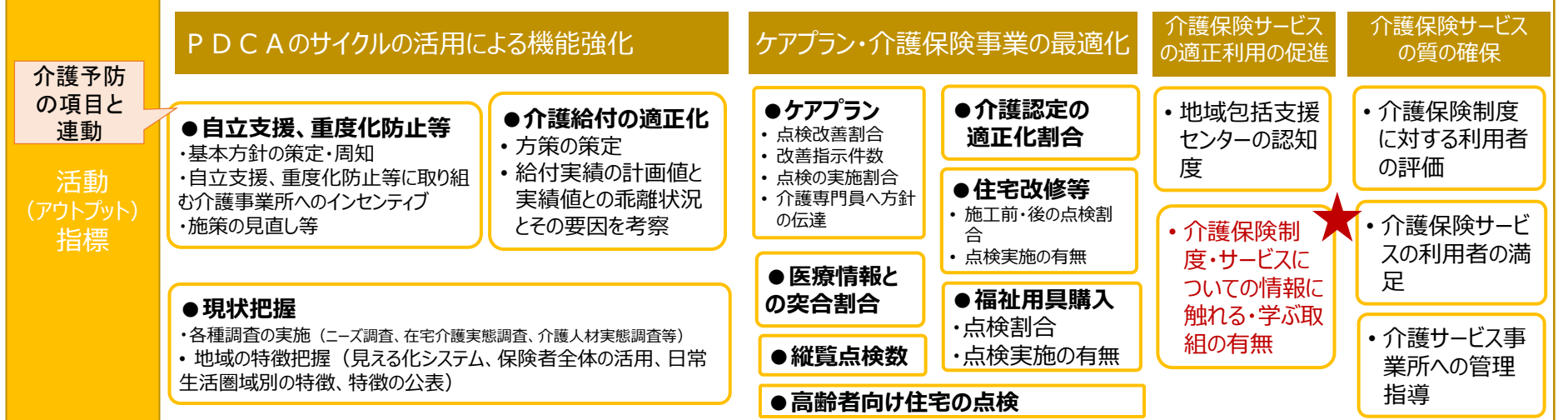
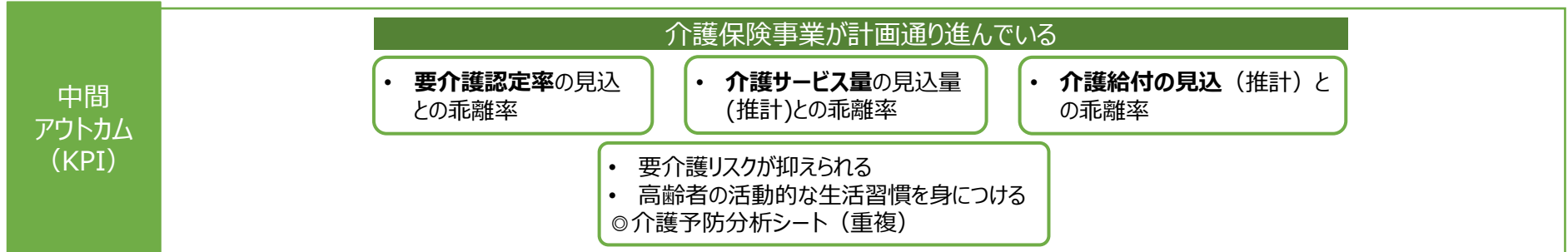
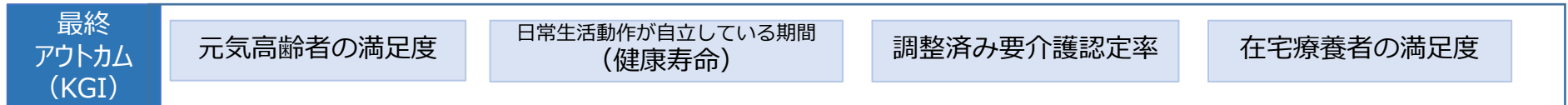


# IV 住まい





# IV 介護保険事業の信頼性



★ …市町村アンケートで新たに収集



# 地域包括ケア体制構築状況「見える化」の9期計画策定での活用

- 今般設定した指標については、市町村と共有し、状況把握と成果（アウトカム）を意識した施策展開を支援
- 今後の県及び市町村施策への反映のため、令和4年度に必要な見直しを行ったうえで、地域包括ケア体制構築状況の「見える化」を行い、第9期県計画・市町村計画にも活用。
- 地域包括ケアの更なる推進を図り、健康寿命の延伸や在宅等死亡率などの明確な成果につなげる。

## 【成果指標の精緻化】

- ・ 令和4年度も関係機関の意見聴取し、**指標を見直し、調査を実施**

※ 令和4年度において、第9期計画策定にむけた各種調査を実施  
高齢者介護実態調査等とあわせて精緻に分析し、市町村と共有

## 【健康寿命の延伸など、地域包括ケア体制の推進】

- ・ 健康寿命の延伸、在宅等死亡率、幸福度の増大など、地域包括ケア体制の成果による「しあわせ信州」の推進を加速

## 【第9期（2024～2026年度）

### 県・市町村介護保険計画への反映】

- ・ 市町村と共通認識を持ち、また県民の参加を促進するため、**成果指標の市町村介護保険事業計画への反映**を支援

※ 第8期（2021～2023年度）計画において何らかのアウトカム指標を設定している保険者は38.7%にとどまる。医療経済研究機構調べ

## 【本調査結果の共有】

- ・ 市町村と「成果」について共通認識を持ったうえで、**現状把握と、成果に向けた施策展開を支援**